

## 6 中学校国語科の授業改善のポイント

### 中学校 話すこと・聞くこと

問題〔2一〕〔2二〕〔2三〕  
話し合いをする(文化祭)

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○話し合いの話題や方向を捉えること

〔2一〕(府の正答率80.7%、全国の正答率80.4%)

▲相手にわかりやすく伝わる表現について理解すること

〔2二〕(府の正答率69.6%、全国の正答率69.7%)

▲話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと

〔2三〕(府の正答率61.0%、全国の正答率60.4%)



#### 解説

- ・「話すこと・聞くこと」の領域の正答率は全国平均を上回っていますが、問題が求める内容を、実際の指導の場面で生徒が注意できているかを見る必要があります。
- ・相手にわかりやすく伝わる表現について理解すること〔2二〕は全国平均を下回っています。
- ・また、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ〔2三〕は、全国平均を上回っていますが、引き続き指導に留意が必要です。

#### 授業改善のポイント 実際の指導の中で、以下の点を確認する。(話し合うこと)

- ◎誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのか、が明確になるような主体的な話し合い活動を行う。
- ◎例えば、小学校での学習を踏まえ、司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話し合いを行うなどの学習活動が考えられる。
- ◎その際、話し合いの途中で、それぞれの発言の仕方について留意すべき点を確認したり、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話し合いの仕方を見直しながらか進めるように指導することも効果的である。
- ◎話し合いを通じて自分の考えがどう変わったかについて確認させることが大切である。「考えの形成」自分の考えをわかりやすく相手に伝えるには、話題に対する自分の立場や考えを明確にするとともにそのような立場や考えであること理由について話すことが大切である。その際、話し合いの参加者の状況を考慮しながら、相手の発言を具体的に言い換えたり、他者同士の発言を結びつけて話したりするように指導する。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること  
〔3一〕(府の正答率88.0%、全国の正答率87.4%)

○伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと  
〔3二〕(府の正答率79.1%、全国の正答率77.8%)



**解説** 「書くこと」の2つの問題とも全国平均を上回っていますが、〔3二〕の考えの根拠を明確にすることは、「話すこと」にも関わることであり、引き続き留意が必要です。

## 授業改善のポイント (意見文を書く課題)

- ◎自分の考えの根拠を明確にするために、複数の事例やデータなどを示し、説得力のある文章にすることを意識させる。
- ◎構成の検討…以下の点に留意する。
  - ・段落と段落との関係を基に論理的な文章の構成になっているかを確認させる。(「小論文グランプリ」の指導としても重要)
  - ・様々な種類の文章を書く際に、文章に応じてどのような構成が必要かについても意識させることが大切。(たとえば問題1の「情報を読む」で、新聞ではどのような構成が工夫されているかなど)
- ◎記述…以下の工夫が必要である。
  - ・接続語の使用や段落構成の工夫(どの部分が根拠であるかが明確になるような表現の工夫)
  - ・表現しようとする内容にふさわしい語句を選んでいるかどうかについて確認させるなど、言葉に着目させること。
- ◎推敲…題材の捉え方や材料の用い方、根拠の明確さ、伝えたいことが伝わる表現になっているかなどを確認させる。(書いた文章を互いに読み合いこれらの点について交流するなどの活動も効果的)
- ◎課題に沿って文章や図表などから必要な情報を根拠として取り上げて、自分の考えを書く活動を設定する。  
その際、取り上げた情報が、自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかを検討し、読み手にわかりやすく伝えるように、必要に応じて取り上げた情報について自分なりの考えを加えるように指導することが大切。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと  
〔1一〕(府の正答率64.4%、全国の正答率63.9%)

▲文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること  
〔1二〕(府の正答率61.4%、全国の正答率61.5%)

▲文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと  
〔1三〕(府の正答率90.9%、全国の正答率91.2%)

### 解説

- ・3問のうち、2問が全国平均を下回っています。
- ・課題の1つ目は、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることです〔1二〕。文章全体を俯瞰しながら、必要な情報を選別することについては、今後も引き続き留意が必要です。
- ・2つ目は、文章(文学作品)に表れているものの見方や考え方について自分の考えを持つこと。これは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」にも共通する「考えの形成」であり、いずれの場合も、話や文章等から根拠を明確にして表現することが求められます。

### 授業改善のポイント

#### ◎(説明的な文章を読む課題)

- ・文章を正しく読む基本として、主語・目的語・述語等の確認や、指示語と指示する内容との確認など、「これくらいは読めているだろう」と思われるような内容でも、本当に理解できているかを再確認することが重要である。
- ・文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる際には、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する。
- ・その際、文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりするように指導する。
- ・生徒自身が目的意識を持って文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。
- ・例えば、目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかということに加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるかについて検討するなどの学習活動が考えられる。

#### ◎(短歌などの文学作品を読む課題)

- ・どの表現に着目しているのかを明確にした上で、以下のことに留意して交流し、各自の考えを広げたり深めたりする指導が効果的である。
  - \* 同じ表現に着目して同じような考えをもっている
  - \* 同じ表現に着目して異なる考えをもっている
  - \* 異なる表現に着目して同じような考えをもっている
  - \* 異なる表現に着目して異なる考えをもっている

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)**

○語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解すること  
〔4〕（府の正答率80.0%、全国の正答率78.7%）

▲封筒の書き方を理解して書くこと  
〔1四〕（府の正答率57.0%、全国の正答率56.8%）

**解説**

- ・今年度AB問題が一体化し、これまで出題されていた漢字の読み書きや慣用句・ことわざ等の問題がなくなりました。
- ・しかし、いわゆる伝国の問題は、毎年府が全国平均を下回る問題の中でかなりのウエートを占めてきたので、日常から定着を図る指導が必要です。
- ・封筒の書き方の問題〔1四〕、語の一部を省いた表現の問題〔4〕ともに全国平均を上回っていますが、特に前者の問題は、封筒に書くという習慣がなくなりつつある現代生活においては、着実に指導していく必要があります(この問題のみ、無解答率が全国平均を上回っています)。総合的な学習に時間でお礼状を書く等の取組とも併せて実施していくことが望まれます。

**授業改善のポイント**

- ◎手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くように指導することは、社会生活に役立つ書写の能力を育むために重要である。
- ◎その際、相手の名前を他の文字より大きく書くことなど、手紙の形式に込められた相手への敬意について考えさせることが大切である。
- ◎生活体験が乏しくなる風潮の中、これまで知っていて当たり前と思われていた語句を知らないという生徒が増えてくるとされる。それぞれの生徒の語彙の習得状況を把握しながら、理解しているかどうかを丁寧に確認することが必要である。
- ◎語感を磨き語彙を豊かにするには、以下のような学習活動が考えられる。
  - ア 気になった語句をノートに書き留め、その語句を使った短文を作ったり、話や文章の中で使ったりする。
  - イ 文学的な文章の学習で、登場人物の人物像などを四字熟語や慣用句を用いて表す。
- ◎語の一部を省いた表現を始めとする事象や行為などを表す多様な語句について、どのように用いるとよいのかを検討したり、用いる際に必要な配慮があるかを考えたりすることも大切である。